

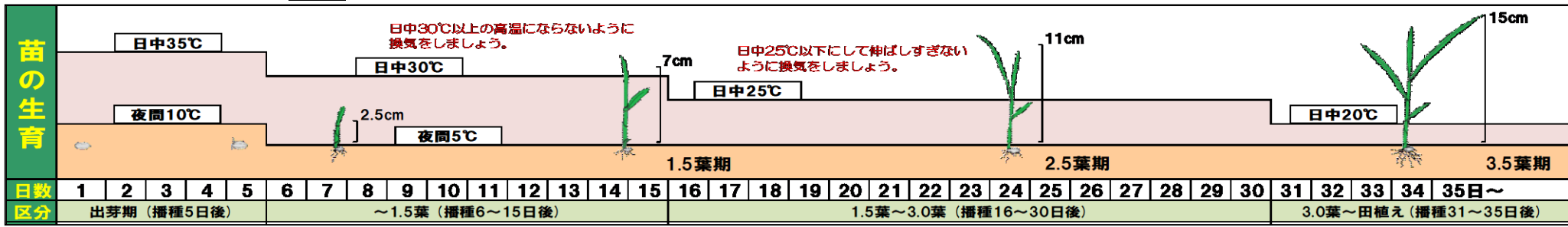
育苗管理・本田の準備です。高品質で良食味な米づくりに向け、健康な土づくりと健苗育成に努めよう！

- ・育苗中の温度・水管理に気を配り、丈夫な苗作りに努めましょう。
- ・低温時の深水管理ができるよう畦畔のかさ上げや整備・補強を行う。

育苗管理 良い苗の条件は・・・根は、太く白い。根数が多い
 葉は、硬く、茎が太い背丈の低い苗(がっちりとした苗)

※気をつけるところは温度管理・水やりです!!

※温度に気を配り換気をしっかりと！(出芽期以降、夜間低温の心配がない場合は、両裾を少し開け換気する)



生育ステージごとの温度管理	出芽期 は種5日後	日中の温度 35℃以下	<ul style="list-style-type: none"> ●ハウス育苗では、水分保持と保温のためにシルバーポリトウなどで平張り被覆を行いましょう。 ●シルバーポリトウなどの平張り被覆は、8割程度の出芽を確認したら取り除きましょう。 ※被覆期間が長すぎると、ヤケたり、伸びすぎて病気にかかりやすい弱い苗になるので注意しましょう。 ●折衷苗代では、高温・過湿にならないよう換気と排水対策(溝切り)に努めましょう。
	出芽～1.5葉期 は種6～15日後	日中の温度 30℃前後	<ul style="list-style-type: none"> ●日中は、30℃以上の高温にならないよう積極的に換気を行いましょう。
	1.5～3葉期 は種16～30日後	日中の温度 25℃程度	<ul style="list-style-type: none"> ●2.5葉期前後は生育が不安定になりやすいため、日中25℃以下にし、夜間は5℃以上に管理しまししょう。 ●追肥が必要になった場合は、1箱当たり硫酸5gを500ccの水に溶かして散布してください。 ※朝または夕方のかん水前に散布し、追肥後は必ず水洗いし葉焼けを防ぎまししょう。
	3葉期～田植え		<ul style="list-style-type: none"> ●霜の降りるとき以外は外気に慣らして、硬く丈夫な苗に育てまししょう。 ●田植えの5日位前から日中全面開放し、夜間は上部のみを被覆し両裾は開きまししょう。

※ハウスは乾燥に、苗代は加湿に気をつけよう！

- かん水は、箱土が乾燥し葉先が巻き始めた頃、**朝方**にたっぷりかん水しまししょう。
- ハウスでは、毎日機械的にかん水すると背丈が伸びる割には葉齢が進まない徒長した軟弱な苗になるので注意しまししょう。育苗中は節水栽培して硬く丈夫な苗にする。
- 苗代では、床面と育苗箱の密着度を高めるため置床を柔らかくすることが大事です。育苗箱が下に沈むような柔らかすぎる床土では出芽傷害をおこすので、耳たぶくらいの硬さの床面が望ましいです。苗に直接水をかけないようにし、床面が乾燥した時は、箱の床面に湛水するが、箱に水が浸みたら直ちに水を切りまししょう。

- ◆**苗立枯病予防** → は種2週間目頃にタチガレエースM(液) 800倍を1箱当たり500cc注入して下さい。
- ◆**くもの巣カビ** → くもの巣カビの発生が確認されたら、ダコニール1000液剤800倍を1箱当たり500cc散布して下さい。

注意！農薬節減米栽培の方へ* 『ダコニール粉剤』『ダコニール1000』は使用できません。

農薬節減米栽培では、育苗期間中を通じて『タチガレエースM粉剤』または『タチガレエースM液剤』のどちらか1回しか使用できませんのでご注意下さい。床土に混ぜている場合は、それ以降は使用できません。

土作り

深 耕 (15cm以上)・・・作土層を広げ、根が深くまで伸びるようにすることにより、窒素が生育後期まで持続的に吸収されます。
 混合りん肥で強い稲体・・・ケイ酸は、稲体の水分代謝、養分の転流を良好にし、登熟歩合や千粒重が向上するほか病害虫の抵抗性、
 食味の向上に 耐倒伏性の向上、玄米タンパク質の低下による食味の向上が期待できます。

肥料

普通田(乾田)の場合

	品名	タイプ	1袋当りの成分			袋数(10a)	
			N	P	K	つがるロマン	まっしぐら
土壌改良材	混合リン肥新1号	化成	—	1.0	4.8	5.0	5.0
基肥	つがるロマン	有機	2.0	3.0	2.0	2.5	3.5
	有機化成エコ米	有機	2.0	2.4	1.2	2.0	3.5
	マップ264号	化成	2.4	3.2	2.8	2.0	3.0
	高度化成オール14	化成	2.8	2.8	2.8	2.0	2.5
追肥	NK25号	化成	2.0	—	3.0	1.0	1.0
	ロマン追肥	化成	2.0	0.3	2.0	1.0	1.0
全量基肥	ニューてまいらず	化成	2.0	4.0	2.8	3.5	4.5
	水稻春一発	化成	2.0	2.0	2.0	3.5	4.5
	あど楽一発	化成	4.0	3.0	3.0	2.0	2.5

👉 田土壌の理想的な条件 👈

- ・地下水水位が50～70cm以下。
- ・50cm以内に根の伸長を妨げる層がない。
- ・減水深が1日当たり1～3cm程度。
- ・作土の深さが15～20cm程度。
- ・土壌窒素が生育期間をつうじて平均して持続的に発現する。
- ・肥料養分の保持力が大きい。
- ・有機リン酸を豊富に含んでいる。
- ・ケイ酸や微量元素等の養分をバランスよく豊富に含まれている。

※食味向上を目指し、土壌改良材(混合リン肥等)積極的に使用しまししょう。

※土質に応じた基施肥、生育に応じた追肥をしまししょう

